

新型コロナ対策の これまでとこれから

国立国際医療研究センター
国際感染症センター長
おおまがりのりお
大曲貴夫 先生



5月24日の段階で、東京都における新型コロナウイルス感染症患者の報告が2名にまで減少しました。一時期は1日当たりの報告者数が200名を超えたことを思えば、その数は本当に減少したと思います。私は、今年の3月の終わりから4月にかけて東京がどうなるのかと本当に心配し、医療者として気持ちが追い詰められていました。これで東京における新型コロナウイルス感染症の流行の第一波をくぐり抜けられる見通しが見えてきました。

ここまで来ることができたのは、住民の皆さま

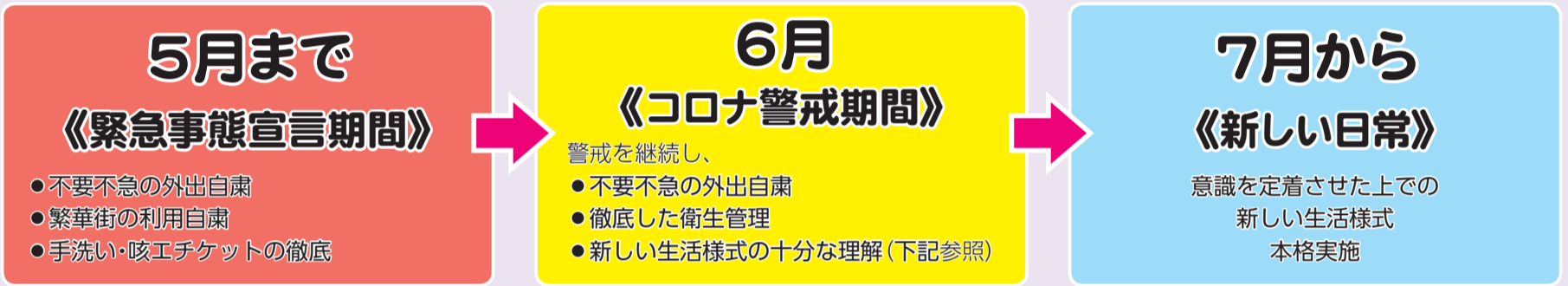
方がいわゆる3密(密閉・密集・密接)を避けることを意識して行ってきていただいたことが大きな効果を示していると考えています。これら3つがそろそろ所が新型コロナ感染症のクラスターの起こりやすい場です。実はこの概念は、この1月からの新型コロナウイルス感染症の国内での流行の中で、新たに得られた知見から導き出されたものです。私は、感染のリスクの高い場を明快に描き出した、素晴らしい概念だと思っています。皆さん方がこれを避けてくださったことが今の成果につながっていると考えます。

さて、いよいよ緊急事態宣言が解除されました。しかしこれは新型コロナウイルス感染症対策の終わりではありません。これまでのさまざまな科学的な検討で、少し対策が緩めば患者数がぶり返すことがわかっています。世界のさまざまな国でも対策を緩和したことによって、再度流行が見られるようになったなどの報告があります。よって日

本においても決して意識を緩めてはならないと思います。せっかくここまで押さえ込みが効いていたのに、ちょっとした気の緩みで3月から5月に起こったような大流行がまた戻ってくる可能性があります。あのときにはみんな不安で辛い思いをしました。このような事態はできれば、もう経験したくないものです。

これから対策に関しては徐々に変更されていき、私たちの日々の生活にも自由度が増していくと思います。しかし3つ密の場が新型コロナウイルス感染にかかってしまう危険性が高いことには変わりありません。平穏な日々が続けられるよう、引き続き3つ密の場を避けてまいりましょう。また当面の間はお互いにコロナウイルスをうつし合わないよう、外出時にはマスクを着用することを強くお勧めいたします。私も区民の一人として、ここまでの多くの方々の努力を無駄にしないよう、引き続きコロナ対策にがんばっていきたいと思います。

新宿ステップ



感染予防のための新しい生活様式

あなたの命と大切な人、社会を守るために、一人一人が日常生活の中で感染予防の視点を踏まえた「生活様式」を心掛けることが大切です。
【問合せ】保健予防課保健相談係(第2分庁舎分館1階) ☎(5273)3862・FAX(5273)3820へ。

<p>密閉を避ける 小まめに換気</p>	<p>密集を避ける 人数を減らす</p>	<p>密接を避ける 人との距離は2m (最低1m)</p>	
<p>外出はマスク着用 屋内や会話は 症状がなくても着用</p>	<p>小まめに手洗い 帰宅時はシャワーを 浴びるとベスト</p>	<p>体調が悪い日は 無理せず休む</p>	<p>みんながよく 触れる場所は 消毒</p>

ウイルスに接触する機会をつくらないために、例えば...

<p>人との交流は、オンライン (テレビ電話・テレビ会議) を活用</p>	<p>食事は 大皿・おしゃべり・ 対面・大人数は避ける <u>マスクをしていないので、 しぶきが飛びます!</u> 持ち帰りやデリバリーも活用</p>	<p>買い物は 電子決済・ 通販も利用</p>
<p>空いている時間 に外出</p>	<p>出かける時は、 徒歩や自転車での 移動も考える</p>	

※新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提言(5月4日)から